

2020年度 第1回八尾市地域就労支援基本計画推進委員会 議事要旨

| | |
|-----|--|
| 日 時 | 2020年7月29日(水) 午前10時30分～12時00分 |
| 場 所 | 八尾立青少年センター |
| 出席者 | <p><外部委員> 五石委員長、渡邊委員、竹内委員、藤本委員、荒木委員、朴委員、音田委員、 計9名 (※原田委員、清水委員、石本委員欠席)</p> <p><庁内委員> 中野委員、鎌田委員、浅井委員、北口委員、岡本委員、山本委員、小森委員、寺島委員、辻内委員、河野委員、阪本委員、中山課長補佐(仁科委員代理)、大保委員 計13名</p> <p><オブザーバー> 地域就労支援コーディネーター 計5名</p> <p><事務局> 5名</p> <p style="text-align: right;">総計32名</p> |

－事務局による司会で次第に沿って進行－

1. 開 会

2. あいさつ(経済環境次長)

3. 委員紹介

4. 委員長あいさつ

日本社会がコロナで一変し、地域就労においても大きな影響が出ていると思われる。そのため本日は現場から現状について報告していただきたい。また、本日は、2020年度にとどまらず、2021年度の事業計画に反映できるよう現場、特にコーディネーターより、コロナ禍における地域就労支援事業に対する意見や要望、以前からの課題や改善点などを聞かせてもらいたい。

－委員長による議事進行－

5. 2019年度 実績報告(計画進捗状況報告)について

事務局より、最初に前回議題に上がった第6次総合計画策定の進行状況及び第2次八尾市地域就労支援基本計画については、総合計画策定を受けて改定するため、改定時期を1年延長する旨説明。その後、2019年度の実績報告について資料に沿って説明。

委 員 長：意見質問等はないか。

委 員：総合計画について、特別委員会で就労支援の対象から同和地区住民の削除が求められていると聞いているが、市としてどう対応をしていくのか。

委 員：総合計画については、第2次就労支援計画に合わせて、今の文言で進めていく方針で考えている。

委員：放課後児童育成事業において、事業・取り組み概要の市内小学校数に誤りはないか。

委員：小学校区は28校区であるが、改めて確認し報告する。

委員：資料2の12、13ページの桂・安中青少年会館が担当課となっている【220】青少年の社会的適応力を高める支援、【230】若年者向け就労支援事業の連携については、実績内容が一緒になっている。実績数も大きいので内容を教えてほしい。

委員：青少年会館が委員として入っていないため、担当課に確認の上、報告する。

委員長：地域就労支援事業において、青少年会館は重要な役割を担うと考えている。地域就労支援で関わる就労困難者が青少年会館を利用することはあるのか。

委員：担当課に確認の上、報告する。

委員長：資料1の1ページ(3)相談者内訳では中高年齢者が多い。一方で、次の2ページ目の(5)労働施策への誘導においては地域就労支援メニュー(介護職員初任者研修等)が圧倒的に多い。その実績を地域別(4ページ)で見ると、中央地域就労支援センターが圧倒的に多いが、何故か。

事務局：介護職員初任者研修については、中央地域就労支援センターの支援員から講座に誘導するだけでなく、地域就労支援センターとつながりのない受講希望者は、必ず中央地域就労支援センターに誘導し、受講後の就労への相談に繋げている。そのため中央地域就労支援センターの実績数が多い。

委員長：次に2020年度の事業計画について議論していくが、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で昨年度と比べ就労に関する状況が大きく変わっている。事業計画を議論するにあたり、現状等を把握するため、直接相談にあたっておられる地域就労支援コーディネーターより現状を報告していただきたい。

オブザーバー：緊急事態宣言当初は、就労中の方からの相談が多く、会社の方針や自身の働き方などについての今後の変化に対する不安や焦りなどの訴えが多かった。会社の休業や一部閉鎖が始まってからは、採用決定後の急な待機連絡や派遣の雇止め、勤務日数減少による減収などコロナに関連した転職・離職等の相談が多くなった。また、就労困難者自身の相談自粛、事業所側の面接の取り止めや求人票の取り下げ等、求職活動中の方にも影響が出ていた。現在は落ち着いてきているが、いつ状況がもどるかわからない。就労困難者は、非正規やパート雇用の方が多く、事業縮小などの際には影響を受けやすい現状がある。

また、不確定な情報があふれる中、同じ状況でも個々に求めていることが違うため、各々が必要とする情報を伝え、不安を一つずつ解消していくような寄り添った支援が必要であると改めて思った。多くの求人があっても求人情報が合致しないと応募できないが、就労阻害要因に合わせて仕事内容(時間や日数等)を調整できれば就労のチャンスが得られる。そのた

めにもコーディネーターとして職場開拓や職場実習の機会を作ることができればと思う。就労困難者については、相談者に出来上がった求人票に当てはめるのではなく、求人票を相談者に合わせる必要がある。相談者に応じた企業の開拓ができれば、より就労のチャンスが得られると実感する。

委員長：2点について、話があったと思う。一つは、寄り添うための方法。コロナで利用者に直接接触ができない中、はがきの送付やSNSの活用など、どの現場も工夫をしている。コロナ禍では新しい寄り添い方を考えていかなければいけない。もう一つは、職場実習や企業開拓などのメニューの不足という点。ユニバーサル就労といわれる職務分解、その人に合った仕事を企業に提供してもらう。そのためには、利用者の状況を知ることや企業の仕事を把握する必要がある。それを担う人、支援が必要であると思う。

オブザーバー：今年度の相談者の傾向として新規が少なく、女性、就労中の方が多い印象。ハローワーク布施管内の求人倍率が1を割り、4月0.98、5月0.87とより低くなっており、求人票を探しても感じる。相談に来る方は高齢の方が多いこともあって、パートを希望されている方が多い。介護職、専門職はあるが、それ以外は全面的に減少し、求人がなくなっている職種もある。フルタイムで見ると少し増えてきているが、35歳以下、もしくは45歳以下という年齢制限がある。半数かそれ以上は35歳以上の相談者である。今の条件で、フルタイム求人を探していくのは非常に難しい状況である。また、ケースには、緊急事態宣言により採用が延期され6月下旬に研修が開始されたケースや、20数年来観光業に派遣されていた方が、6月から来なくてよいと言われ、7月は20%減収になり、8月中旬に事務の仕事に移ることになった方もいる。その方は今までパソコンを利用したことがほとんどなく、現在、地域就労支援事業のパソコン講座に誘導しているところである。

委員長：布施所管内では1を切っていること、非正規の方が雇用環境が厳しいことが実例により具体的に把握できた。

オブザーバー：中央地域就労支援センターについては、ハローワークの地域職業相談室と共同してワークサポートセンターを運営しており、4月11日から5月末までコロナ感染予防のため閉庁し、地域就労支援センター部分のみ電話相談で対応した。相談件数は前年に比べ減少している。ワークサポートセンターでは、勤労者法律相談の受付を行っているが、コロナ関係の相談としては、月給制から時給制への変更、民事再生などがある。また、地域就労支援センターへの相談としては、採用となり社内研修を受講中に急遽打ち切られ、その後採用取り消しになったケースや、大学のオンライン授業の体制に不満を感じたため、大学を辞めて就労することを考えているなどの相談があった。

ハローワーク関係者と話す中で、現在、布施所管内で製造業の助成金の申請件数が増えており、求人件数も大幅に減っていると聞いた。これから製造業は厳しくなるのではと推測される。

委員長：製造業が今後厳しくなることが予測され、離職者だけでなく在職中在学中の相談が多いという点が印象的であった。

6.2020年度 事業計画について

事務局より、資料にそって説明

委員長：地域就労支援コーディネーターの報告も踏まえ、今年度、来年度の事業計画等についてご意見を伺いたい。

委員：意見ではないが、ハローワークの様子について説明させていただきたい。例年3月は定年退職等の方で、毎日200人を超える人が失業給付や求職登録等でハローワークに来庁される。通常であれば5月中旬には来庁者が減ってくるが、今年度はいまだコロナの関係で200人を超える人が来庁している。休業する会社を見限って退職するケースや休業するも耐えきれず事業所が閉鎖されての離職も増えてきている。多くの求職者が来られているが、残念ながら、現在ハローワークでは大規模イベントができない状況であり、例年であれば開催している面接会等のイベントも、現在はコロナの関係で開催できない。求人については、4月5月は求人募集自体が控えられたり募集の保留を求められたりしていたが、最近は少し増加傾向にある。求人募集がなされた際には、わかりやすい求人票を作成するため、企業への訪問等を申し出るが受け付けてもらえないことも多く、電話で聞き取りをしている。しかし会社との温度差が生まれるなど、わかりやすい求人票の作成が難しいのが現状である。今後は、コロナ対策を行ったうえでミニ面接会やセミナーをできる限り実施していきたいと思っており、関係機関や八尾市と連携し取り組んでいきたい。

委員：大阪府としては雇用の維持と離職者への支援を実施している。雇用の維持に関しては、休業要請支援金と休業要請外支援金を実施。ただ、雇用調整助成金含め、企業も様々な制度を活用しながら頑張っているが、なかなか状況が苦しく解雇や雇止めが発生しているとのことであり、離職者に関してはOSAKA しごとフィールドで支援しているところである。しごとフィールドも4月11日から5月末まで来館サービスを停止していた。その間、カウンセラーによる相談は電話相談に切り替え実施し、就職活動のノウハウなどのセミナーはオンラインへ切り替えて配信するなどしていた。6月以降は、定員を半分にし、セミナーや個別の面接会を開催。8月にはシニアの方の合同企業説明会を定員半分に試行的に実施する予定である。離職者の方が数字にあらわれにくく、模索しながらやっている。地域での就労支援は非常に大事な取り組みだと考えている。今後も連携していきたい。

委員：25年近く高齢者いきがい就労事業を実施してきた。地域内の清掃、除草等の委託を受けて取り組んでいる。ここ数年感じることで、当初は高齢者の健康保持、介護予防の側面が強く、同時に低年金生活者の支援として実施していたが、最近は希望者が多く、聞くと生活費としてのお金が欲しいとのこと。年金額が低い等の理由もあると思うが、当初の介護予防という側面から内容が変わってきていると感じる。

もうひとつ、地域において40代から50代の障がい者とその親の世帯が5世帯ほどあり、その世帯等から気軽に働ける場所があったら働きたいという声も聞く。そこで大阪府の竹内氏に聞きたい。東京都ではソーシャルファームを創設するときに、財政支援をしようという条例ができた。大阪府で、ソーシャルファームに取り組む団体に対しての支援といった動きが

あるのかを聞きたい。八尾市でも就労困難者の就業場所を確保する場所もほしいと思う。また、大阪府で条例をつくって支援するといった動きがあれば合わせて教えてほしい。

委員：ソーシャルファームへの財政的支援については、商工労働部の所管かどうかを含めて確認し、回答する。

委員長：大阪の場合は事業契約、自治体と事業者の契約で生活困窮者等自立支援の就労訓練事業の事業所に優先的に発注をする制度がある。現在あまり活用されていないが、賃金が発生し生活困難な方に生活費を支給できる制度なのでぜひ活用してほしい。

委員：外国人市民がコロナで起こりうることは日本人と同じである。例えば、八尾市で就職していた人が待機を命じられ、緊急小口でお金を借りることになった。また、派遣で他県から八尾市に来られたが5月から仕事に入れる日数が限られるようになり減収した。この2人のケースで違いがあるとすれば、言葉の関係で支援制度にたどりつくまでに時間の差があった。外国人の場合、技術はあるが、言葉の問題に引っ掛かりをもつ企業がある。そこで職場実習などがあれば、とてもいいと思う。地域就労支援センター、パーソナルサポートセンター、八尾市無料職業紹介所で連携し、次年度計画に具体的な形で盛り込めればと思う。コロナの影響で学校現場では職員が消毒を実施していると聞く。雇用の創出をすれば荒木委員が話されていた方の支援になるのではないかと。収入としては高くはないかもしれないが、公的なところで雇用を生み出せればと思う。

委員：先ほどの話で、求人票で仕事の組み合わせをして調整することで、いろいろな働き方ができるのでないかと意見があったが、一人一人に合った雇用をしていくことは重要だと考える。そのような方向で取り組んでもらえるとよいと思う。

委員長：いただいた意見をまとめるので、今年度後半や来年度事業計画への反映を是非検討してほしい。1つ目は新しい寄り添いのあり方。コロナのため直接寄り添いが難しくなっているが、頻繁に連絡を取り合うための方法を検討いただきたい。例えば、豊中市は往復はがき、神奈川県ではlineを利用して寄り添っている。新しい支援の在り方を検討してもらいたい。また、日本人だけでなく、外国人多言語対応を含めた検討を今後してもらいたい。2つ目は、企業発掘、職場訓練である。単に求職情報を提供する、履歴書指導するだけではなく、企業発掘、職場訓練を取り入れたメニューを実施してもらいたい。3つ目は公共による職場づくり。既存の生活困窮等の制度や大阪府の条例で、市の優先発注を受けることができる制度がある。予算を必要としない制度であるため、これを活用していただきたい。4つ目は労働相談で在職中や在学中の方の相談が多かった。この支援を引き続き提供していく必要がある。以上、意見はないか。

委員：事務局にお願いがある。何日か前に資料ができていたのであれば事前に目を通したい。当日に資料を見て意見はあるかを聞かれても答えることが難しい。2、3日前にもらえるなら先に目を通して有効な議論ができると思う。

事務局：次回の会議から事前に資料を送るようにする。

6. 閉会

以上